

芦安中学校(前期)自己評価書

平成28年8月31日
南アルプス市立芦安中学校
校長 藤巻孝也

1 前期自己評価の経過

- (1) 前期教職員対象アンケート及び生徒対象アンケートの実施(7月)
- (2) アンケート結果の考察を基に職員会議にて改善方策の審議(8月23日)

2 学校評価の分析と改善方策

(1) 教育目標

〔達成状況〕

- ① 本年度1学期間の教育活動を振り返ってみると、各活動が学校教育目標に沿って実施されており、年度の途中なので成果や達成状況をなかなか実感できていないが、概ね良好な状況にあると言える。昨年度同期と比較してもわずかであるが評価は高くなっている。

〔改善策〕

- ① 格段に劣る項目が見当たらないので、今後とも全職員で学校教育目標を意識し理解しあって、その目標の達成に向けて、「芦中教育」としての日々の教育活動を組織的・継続的に取り組んでいきたい。

(2) 学校運営

〔達成状況〕

- ① 「校務分掌が機能しているか」については、昨年度同期に比べ、評価は高くなってきている。「職員会議」についても学校運営上ほぼ適切に運営されていると言える。
- ② 校内研究については、2つの柱(英会話科と英会話活動の推進・発展、言語活動の充実・発展)を中心に取り組んでいる。「英会話科」では、環境整備も進み、全職員が関わりを持って取り組んだ。4年目となり、小学校からの積み上げや過去3年間の成果から生徒の英会話科に対する意欲や姿勢は良好である。小学生に対する「読み聞かせ」も充実してきた。しかし、「コミュニケーション能力」の育成という視点では、現時点では十分と言えない評価である。一方、「言語活動の充実」では、教科のねらいを達成させるため、意図的に「言語活動」を設定し、より深い思考になるよう指導力の向上に努めた。7月22日には県義務教育課及び中北教育事務所より、それぞれ指導主事を招聘し、全職員が授業等を観察していただき、指導を受けた。このような取組の中、評価は飛躍的に向上した。
- ③ 「報告・連絡・相談」はかなり機能していると言える。しかし、対外的なことや重要事項については更にきめ細かく「報告・連絡・相談」を機能させていく必要性を感じる。

〔改善策〕

- ① 2学期以降も少ない職員がいくつもの分掌を抱えているが、職員同士が連携を取りながら、学校運

営にあたっていきたい。相互補完しながら学校全体で取り組む意識を更に高めたい。

- ② 英会話科も4年目に入り、英会話科の授業にとどまらず学校生活の一部として英語を使うなど、日常化できる取り組みを継続していきたい。また、情報や自分の考えを形成・整理・再構築し、伝え合うなど、より深い学びになるよう研究を進めたい。「言語活動の充実」他、授業力向上については、小規模校ならではの利点を更に追求していく必要がある。教室に数名という恵まれた環境を生かす指導法を研究していく。また、全国学力・学習状況調査や県学力把握調査の結果を分析し、課題解決のための「一校一実践」「一人一実践」の充実に努めていきたい。
- ③ 教育活動が常に全職員周知の中で進められるよう、更に、相談・協議できる職員室にしていきたい。

（3）学習指導

〔達成状況〕

- ① 「授業の進度」については、どの教科も良好であった。しっかりした授業計画と授業時間の確保の結果であると思われる。また、これは生徒の「意欲的に取り組んでいますか」や「授業はわかりやすいですか」の結果にも好影響を及ぼしていると考えられる。
- ② 授業に関して、「授業には、意欲的に取り組んでいますか」「授業は、わかりやすいですか」「授業でわからないことがある時は先生に聞いていますか」「授業では、友だちと学び合う学習活動をしていますか」というすべての項目において、生徒の評価は昨年度より向上している。
- ③ 教師の評価も「あなたは、生徒の関心意欲を高める授業をすすめている」「あなたは、生徒が主体的に学ぶ課題解決的な学習を行っている」「あなたは、生徒が学び合う授業を展開している」「あなたは、個に配慮した授業をすすめている」のすべての項目で昨年度より向上している。日頃から授業に対する意識を高く持って取り組んだ結果であると言える。
- ④ 道徳の授業で「心から考えたり感じたりしていますか」について、教師側が肯定的であるのに対し、生徒に若干の否定的評価がある。1学期に行われた道徳公開では外部講師の招聘など工夫を凝らしたりしたが、十分に響いていなかったのだろうか。あるいは通常道徳の授業が不十分だったのかもしれない。学年によっても異なるであろうが、計画的に取り組みつつ、常に踏み込んだ検証が必要である。
- ⑤ 「総合的な学習の時間」については、これも生徒に若干の否定的評価が見られる。教師側も「生徒が意欲的に探究する総合的な学習」についてほぼ同値であり、生徒の力を引き出すための改善が必要である。
- ⑥ 英会話科の授業については、一定の評価はあるものの、生徒・教師ともに昨年度より評価は落ちている。4年目として内容のレベルアップを図ったとはいえ、見直しと改善が必要である。

〔改善策〕

- ① 学力向上は一朝一夕に成果が現れるものではない。全国学力学習状況調査の上位県や大幅に改善が図られた県では、長年の取組や確固たる指導体制が確立されている。本校は生徒数も少ないので、正答率の比較等で一喜一憂するのではなく、全国や県の学力調査の結果等を分析し、生徒個々と本校の課題を把握する中で、PDCAサイクルの手法によって全教師が授業改善を進めていく。生徒の「授業には意欲的に取り組んでいますか」「授業はわかりやすいですか」は高評価であるので

更に授業改善に取り組んでいきたい。そして、個に応じた指導を推進したい。

- ② 基礎学力の定着を図るために、まなびの時間・放課後の補習の充実を更に推進するとともに、保護者と連携し家庭学習の習慣化と主体的な態度の向上を図っていく。
- ③ 道徳については、『私たちの道徳』などを用い、教育課程にそった授業は今まで通りにしっかり行うと同時に、「しなやかな心の育成アクションプラン」に沿い、道徳の時間の授業以外においても自他の敬愛や困難に打ち勝つ心の育成を学校の内外の機会を通して推進する。道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てるために、学校教育全体を通して指導を行っていく。また、道徳の教科化に向けた評価の研究も順次進めていく。
- ④ 「総合的な学習の時間」の取組が充実した学校では、学力も高いと言われる。本校の特色とも言える取組みを更に充実させ、各教科等で培った力を「総合的な学習の時間」の中で活用させるなど、各教科等を横断した力を身に付けさせることに主眼をおいていきたい。
- ⑤ 伸ばしたい力、方向性を再確認・検討し、2学期以降の取組みをしていきたい。英会話科は本校の大きな柱であるので、議論を重ね、「伝え合うことができる力」に結び付けたい。

〔4〕生徒指導

〔達成状況〕

- ① 学校生活についても、全生徒が「楽しい生活、ほぼ楽しい生活」と回答している。「学年に仲良くしている友だちがいますか」は全生徒が「多くいる、複数いる」と回答している。「いじめや仲間はずれ」に関しても全生徒が「ない」と回答している。
- ② 「困った時に相談できる友だちがいる」と全員回答している。一方、「相談できる先生がいない」と回答する生徒が複数名いる。自力で対処するので『必要ない』と考えているのか、『必要だけれど本当にいない』のかの実態を把握し、早急に対応する必要がある。
- ③ 「気持ち良いあいさつ」については教師・生徒とも好評価である。一方、「場面にあった適切な言葉づかい」について、教師・生徒ともに少数であるが「あまりできていない」と評価している現状がある。お互いに周知の仲であるかもしれないが、社会で通用する生徒を育成する意味でも、場面にあった言葉づかいや対応ができるよう、生徒への自覚を促しつつ、取り組んでいきたい。

〔改善策〕

- ① 楽しい学校生活が送れていることは、非常に大切な事であるので、継続して、普段から生徒の話を聞く姿勢を持ち、信頼関係を深めるとともに、生徒の情報収集のアンテナを高くしていきたい。「いじめ等」については、「ない」と回答していても実はいじめが隠れていたということも全国的に報告されている。現状に安心することなく、生徒の小さな変化を見逃さないなど、生徒理解に努めていきたい。また、道徳教育の充実や居場所づくり・絆づくりにも努めていきたい。
- ② 「相談できる先生がいない」と回答した生徒が複数名いたことは、大変ショックなことである。日頃の教育活動を通しての信頼関係の構築を進めるとともに、教育相談が十分機能できるよう教師力を高めていきたい。また、意図的に教育相談の機会を設定していきたい。
- ③ 適切でない言葉が発せられたときは、その場で指導する。また、お互いを認め合い、相手の気持ちを考えて発言したり行動したりできるよう指導していく。

(5) 学校生活全般（行事・部活動・生徒会活動・・・）

〔達成状況〕

- ① 1学期最大の行事「鳳凰三山全校登山」は、天候が危ぶまれた中、生徒15名、職員6名、支援者6名、保護者等4名で実施することができた。事前トレーニングや登山学習を計画的に行って万全の態勢を整え、当日は大きな病気・怪我もなく日程を消化できた。2日目は強い雨のため、薬師岳山頂までの登山になったが、自然の厳しさや場面に応じた判断を学習する機会になった。
また、昨年度、芦安ファンクラブから寄贈していただいた一眼レフカメラセットを使って、生徒全員が心に残る写真を撮ることができた。何より、全校生徒15名全員が参加できたことは、特筆すべきことであった。
- ② 「部活動」「太鼓」「合唱活動」「生徒会活動」「学校行事」いずれにおいても、意欲的に取り組んだかの問いに「そう思う」「だいたいそう思う」と回答している。昨年度より更に高い評価になっている。ただし、少人数であるが、「あまり意欲的でなかった」と回答している。あまり意欲的でなかった理由など、個々に対応していく必要がある。
- ③ 教師は、諸活動の生徒の取組に対する評価は肯定的で、その成果も期待している。特に、登山は学ぶことの大きい行事として捉えている。

〔改善策〕

- ① 登山については、主体的に登山に臨めるように、実行委員会を設けてトレーニングや学習に取り組む体制はできている。これをさらに充実させる一方、生徒の実態にあったテーマ設定を行い、達成感や成就感、自然の素晴らしさや厳しさを実感できる取組を今後も考えていく。「芦安ファンクラブ」の支援に感謝しながら、本校の特色・伝統を更に伸ばしていきたい。
- ② 学校生活の中でも大きな比重を占める部活動については、バドミントン部のみで長い間活動してきたが、運動の苦手な生徒もいる実態や動向を慎重に検討し、昨年度音楽部を新設した。このことが生徒の活動の意欲喚起につながったと思われる。充実した取組や内容によって学校生活全体のさらなる活性化を期待したい。また、諸活動では一人一人の生徒に目を向け、苦手意識の解消や主体性の向上を図っていきたい。
- ③ 学習や諸活動の中で、生徒が選択して決定する場面などを通して、生徒の活動の良さを認める・褒める活動を意識的に行っていき、自己肯定感が持てるようにしたい。

(6) 家庭・地域との連携および小中の連携強化

〔達成状況〕

- ① 地域の人材の有効活用や地域行事への積極的な関わりは相変わらず評価が高い。全校登山当日ばかりでなく、事前取組が芦安ファンクラブや市教育委員会の協力を得て進めることができた点や、新緑やまぶき祭への参加、道徳等の講師に対する評価が良かったからであろう。
- ② 家庭と学校との連携は、学校からの情報発信(各種たより、ホームページ)と家庭からの申し出や連絡

が密に行われていたととらえている。1学期には、「学校林」「1学期の学校運営や指導等」に関して、保護者の意見を聞くことができた。2学期は、保護者アンケートで更に詳細について確認し、改善と発展を図っていききたい。

- ③ 芦安の小中連携は、「隣接している芦安小中学校が9年間で子どもたちを育てる」という意識である。1学期は、全職員による4月当初の会議と行事(新緑やまぶき祭への合同参加, 引取り訓練, 教育を語る会など)や英会話科に関わる活動が主であった。また, 合同PTAなど他校にはない, 大変充実したものであった。ただ, 連携をあまり実感できていない職員がいるので, その理由を明らかにして更に連携を深める必要がある。

〔改善策〕

- ① 家庭との連絡は密に行われ, 申し出等にも丁寧に可能な範囲で対応している。足りない部分については個々の対応を更に行う。「学力」については学習習慣を確立することが, 生徒の学力向上に必要不可欠である。家庭学習をあまりしない生徒もいる。なお一層, 家庭と連携して取り組んでいきたい。
- ② 各種たより, ホームページの充実を更に進め, 情報発信に努める。また, 保護者等の意見を学校運営に活かせるよう, アンケートの実施にとどまらず, 日頃から保護者等の意見が入りやすい体制を構築していく。
- ③ 2学期は芦安文化祭や英会話科の取組をはじめとして, 具体的な場面での小中連携の活動を行っていく。年3回行われる「小中連携会議」において小中の全教職員が一堂に会すので, 情報を共有し, 建設的な連携を進めていく。中学校職員は小学校の児童を理解する機会とする。
- また, 出前授業やTTなどの実践を検討し, 教育課程の一貫性・連続性を図ることを推進していく。

(7) その他

- ① 中学生は多感な時期で, 悩み等持っている生徒もいることを念頭に日頃から生徒理解に努める。課題が生じたときは解決のために, 生徒を中心に置いて家庭・地域・学校で話し合い等を積極的に持っていきたい。また, 必要に応じて外部機関と連携をして対応したい。
- ② 生徒数・職員数が少ない中で, 多くの活動を行っているので, 一人ひとりの負担は大きい。しかし本校に魅力を感じて地区外から来てくれている生徒もいるので, 本校の教育環境を生かして, 更に良い「芦中教育」がなされるように工夫・改善に努めていきたい。